

巻頭言

公益財団法人佐賀県地域産業支援センター
九州シンクロトロン光研究センター
所長 上坪 宏道



佐賀県立九州シンクロトロン光研究センター（SAGA Light Source ; 以下、「SAGA-LS」と略記）は、産業利用を主目的に創設された九州唯一のシンクロトロン放射光研究施設であり、地方自治体が独自に建設した我が国最初の施設で、管理運営を公益財団法人佐賀県地域産業支援センター九州シンクロトロン光研究センター（以下、「当研究センター」と略記）が行っています。2006年2月に本格的なシンクロトロン放射光の供用を開始し、現在では当初の計画どおり県有ビームライン6本による外部利用者の供用体制が整備されています。また、佐賀大学と九州大学が設置した他機関ビームラインでは、両大学ともそれぞれの大学の利用のみならず他大学等からの利用も受け入れており、SAGA-LSは産官学の研究者・技

術者が個別・連携研究に利用できる我が国の主要な共用施設の一つとなっています。

当研究センターの2013年度のアクティビティを見てみますと、県有ビームラインの利用実績（外部利用時間）は、前年度比約3.9%増の3,633時間（利用件数171件）となっており、この利用実績における産学官の割合は、企業が48%、大学が35%、公的研究機関が17%と、企業の割合が約半分を占めています。

また、シンクロトロン放射光の利用促進や普及の取組みとしては、産学官の若手研究者を対象とし、シンクロトロン放射光の基礎から応用までの習得を目指すサマースクールのほか、「先端産業技術と量子ビームが拓く豊かな未来」と題して、独立行政法人産業技術総合研究所との合同シンポジウム（第7回九州シンクロトロン光研究センター研究成果報告会）等を開催しました。本シンポジウムでは、両機関からの概況報告、特別講演、招待講演、一般講演やポスター発表等により、産学官それぞれの立場から多数の興味深い報告がありましたが、非常に近い場所に位置する両機関が、今後とも地域の発展のために協力していく必要があると認識を新たにいたしました。

さらに、2013年度からは文部科学省の新たな取組みとして、先端研究基盤共用・プラットフォーム形成事業による、シンクロトロン放射光施設6機関（大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構（物質構造科学研究所）、公益財団法人科学技術交流財団（あいちシンクロトロン光センター）、立命館大学（SRセンター）、公立大学法人兵庫県立大学（高度産業科学技術研究所）、公益財団法人高輝度光科学研究センター（SPRING-8登録施設利用促進機関）及び当研究センター）とレーザー施設2機関（学校法人東京理科大学（総合研究機構赤外自由電子レーザー研究センター）及び国立大学法人大阪大学（レーザーエネルギー学研究センター））による「光ビームプラットフォーム」というネットワークに参画し、全国的な視野での利用情報の発信や共通技術の開発、人材交流等を行い、利用者の利便性向上や裾野拡大への取組みを精力的に進めています。

一方、当研究センターではさらなる利用者の利便性向上のため、県有ビームラインや加速器等の高度化等を目的とした試験研究も同時に進めており、本年度は研究課題として7件を実施しましたが、この

うち4件は佐賀県から措置された試験研究費で、3件は日本学術振興会から獲得した科学研究費に基づくものでした。今後も引き続き試験研究を推進し、利用しやすい施設整備を進めてまいる所存です。

最後になりますが、ますます多くの産学官の研究者や技術者がシンクロトロン放射光を利用することで、多くの優れた成果が得られることを期待するとともに、私たちの利用支援がその一助となることを願っています。